

(様式第 10)

分大医総病第 29 号
平成 30 年 10

厚生労働大臣

殿

国立大学法人大分大学長

開設者名 北野正

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏 名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地	電話 (097) 549-4411
----------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科		
②消化器内科		
③循環器内科		
④腎臓内科		
⑤神経内科		
⑥血液内科		
⑦内分泌内科		
8代謝内科		
9感染症内科		
⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
⑪リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科		有	・	無
外科と組み合わせた診療科名				
①呼吸器外科	②消化器外科	③乳腺外科	4心臓外科	
5血管外科	⑥心臓血管外科	7内分泌外科	⑧小児外科	
診療実績				

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		⑮麻酔科	⑯救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		有	・	無
歯科と組み合わせた診療科名				
1小児歯科	2矯正歯科	③口腔外科		
歯科の診療体制				

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科	2児童精神科	3神経小児科	4形成外科	5病理診断科	6リハビリテーション科	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
----	----	-----	----	----	----	----	----

医 師	420人	30人	429.5人	看護補助者	31人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	2人	12.5人	理学療法士	10人	臨床検査技師	52人
薬剤師	33人	0人	33人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保健師	1人	0人	1人	視能訓練士	5人	その他	3人
助産師	22人	0人	22人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	677人	30人	700.8人	臨床工学士	19人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	171人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	35人	その他の職員	57人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	33人	眼科専門医	10人
外科専門医	29人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	6人
		合計	201人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (門田 淳一) 任命年月日 平成29年10月 1日

平成17年4月～平成28年3月 感染制御部長
平成17年4月～平成28年3月 感染予防対策委員会
平成17年4月～平成21年4月 メディカル・リスクマネジメント委員会

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	527.7 人	9.1 人	536.8 人
1日当たり平均外来患者数	996.7 人	45.2 人	1,041.9 人
1日当たり平均調剤数			1,792.2 剤
必要医師数			115.787 人
必要歯科医師数			5 人
必要薬剤師数			23 人
必要(准)看護師数			304 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	236.08m ²	鉄筋コンクリート	8 床	有・無	有・無	有・無
有・無			有・無	有・無		
有・無			有・無	有・無		
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.71 m ²		病床数	8 床		
	[移動式の場合] 台数 19 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 45 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	220m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学分析装置			
細菌検査室	148m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置			
病理検査室	139m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置			
病理解剖室	283m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台			
研究室	4,565m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン, 顕微鏡 など			
講義室	1,635m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室	収容定員 1,495 人		
図書室	1,703m ²	鉄筋コンクリート	室数 13 室	蔵書数 104,989 冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.9 %	逆紹介率	70.8 %
算出根拠 A: 紹介患者の数	10,132 人		
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,304 人		
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	767 人		
D: 初診の患者の数	13,141 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input type="checkbox"/> 無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	医学部附属病院のホームページにおいて公表している。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	30人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	13人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
LDLアフェレンス療法	1人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん	0人
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断	6人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	1人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
術後のカベンタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	顆粒球減少時に重症感染症をきたした患者に対する顆粒球輸血	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 抗がん化学療法や造血幹細胞移植後の顆粒球減少時に重症感染症をきたした患者に対し、血縁者ドナーにG-CSFを投与して動員された顆粒球を投与し、有効性と安全性を評価する			
医療技術名	Squid captureを用いたIn-situ fenestrationによる血管内治療での弓部大動脈再建術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 全身状態不良患者さんの弓部大動脈瘤に対して大動脈内でステントグラフトに枝を作成し弓部大動脈再建を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する腹部分枝バイパスを併用した非開胸ステントグラフト治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 全身状態不良な患者さんの胸腹部大動脈瘤に対して腹部4分枝を人工血管でバイパスしたのちにステントグラフトを挿入して治療する。			
医療技術名	自己心膜を用いた大動脈再建術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大動脈弁疾患の患者さんに対して人工弁を用いずに自己心膜をグルタールアルデヒドで固定したものでリーフレット(弁葉)を作成し、それを用いて大動脈弁再建する手術			
医療技術名	左開胸による多枝冠動脈バイパス術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 正中切開をせず左胸小切開により2枝以上の冠動脈バイパスを行う低侵襲手術			
医療技術名	右腋窩切開による大動脈弁置換術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 正中切開を行わず右腋窩小切開にて行う大動脈弁置換術			
医療技術名	胸腹部大動脈に対するfenestrated graftを用いた完全血管内治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ランディング部位のない通常のデバイスでは適応とならない胸腹部大動脈瘤に対して穴の開いたステントグラフトと枝グラフトを用いて開胸、開腹することなく血管内治療だけで治療する手技			
医療技術名	内視鏡下頭蓋底手術(含内視鏡下鼻副鼻腔癌摘出術)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 鼻副鼻腔と頭蓋底は隣接する領域である。頭蓋底の病変(主に腫瘍)に呈して経鼻内視鏡を用いて手術(頭蓋底再建を含む)を行うものである。			
医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節をエコーガイド下に穿刺吸引生検、診断を行う。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下経気管支肺生検	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 ナビゲーションシステムを用い、病巣との関与が考えられる気管支を同定、気管支鏡検査時間の短縮を図る。ナビゲーションの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的病変に確率的に中させ、ガイドシースを留置、同病変からの繰り返しの生検を行えるようにする。			
医療技術名	気管支サーモプラスティ	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 気管支鏡に電極付きのカテーテルを挿入し、高周波電流で気管支壁に熱を加えることで、喘息の原因となる肥厚した気道平滑筋の量を健常人に近づけ、気管支の収縮を抑制し、喘息の病態を改善する。			
医療技術名	遊離筋弁移植による陳旧性顔面神経麻痺治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 マイクロサージャリー技術を用いて、麻痺した顔面に筋肉移植を行い、表情を再建する。			
医療技術名	培養表皮を用いた巨大母斑治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 先天性の巨大な母斑を切除後に、培養して増やした表皮を移植して、低侵襲で切除再建を行う。			
医療技術名	悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行うことにより、リンパ節転移の効率的な検索をおこな			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	患者数	患者数
9	56	ベーチェット病	88
13	57	特発性拡張型心筋症	71
3	58	肥大型心筋症	22
0	59	拘束型心筋症	0
9	60	再生不良性貧血	17
85	61	自己免疫性溶血性貧血	1
11	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
3	63	特発性血小板減少性紫斑病	35
0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
4	65	原発性免疫不全症候群	3
59	66	IgA腎症	0
1	67	多発性嚢胞腎	0
72	68	黄色靱帯骨化症	0
18	69	後縦靱帯骨化症	7
3	70	広範脊柱管狭窄症	5
0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
7	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
38	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
2	75	クッシング病	6
7	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
24	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
0	78	下垂体前葉機能低下症	0
0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
2	82	先天性副腎低形成症	0
4	83	アジソン病	2
0	84	サルコイドーシス	155
0	85	特発性間質性肺炎	104
0	86	肺動脈性肺高血圧症	9
0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
7	89	リンパ脈管筋腫症	9
6	90	網膜色素変性症	0
0	91	バッド・キアリ症候群	4
8	92	特発性門脈圧亢進症	3
6	93	原発性胆汁性肝硬変	77
4	94	原発性硬化性胆管炎	3
9	95	自己免疫性肝炎	63
5	96	クローン病	42
14	97	潰瘍性大腸炎	80
26	98	好酸球性消化管疾患	0
33	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
16	101	腸管神経節細胞減少症	0
4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
1	103	CFC症候群	0
335	104	コステロ症候群	0
98	105	チャーシ症候群	0
32	106	クリオピリン関連周期性熱症候群	0
43	107	全身型若年性特発性関節炎	3
100	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
28	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
6	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
3	161 先天性ミオパチー	0	162 家族性良性慢性天疱瘡	0
0	162 マリネスコ・シェーグレン症候群	10	163 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	10
1	163 筋ジストロフィー	0	164 特発性後天性全身性無汗症	0
0	164 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	165 服皮膚白皮症	0
0	165 遺伝性周期性四肢麻痺	0	166 肥厚性皮膚骨膜炎	0
1	166 アトピー性骨髄炎	0	167 弾性線維性仮性黄色腫	0
3	167 脊髄空洞症	4	168 マルフアン症候群	4
0	168 脊髄腫瘍	2	169 エーラス・ダンロス症候群	2
1	169 アイザックス症候群	0	170 メンケス病	0
0	170 遺伝性ジストニア	0	171 オクシピタル・ホーン症候群	0
0	171 神経フェリチン症	2	172 ウィルソン病	2
2	172 脳脊髄液ヘモジエリン沈着症	0	173 低ホスファターゼ症	0
0	173 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	VATER症候群	0
0	174 皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	那須・ハコラ病	0
0	175 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	ウィーバー症候群	0
0	176 ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
3	177 前頭側頭葉変性症	0	177 有馬症候群	0
0	178 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
0	179 症型重複型(二相性)急性脳症	1	179 ウィリアムズ症候群	1
0	180 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
0	181 アレキサダー病	0	181 クルーソン症候群	0
0	182 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
0	183 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
0	184 中隔視神経形成異常症/トモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
0	185 アイカルティ症候群	0	185 コフィン・シリズ症候群	0
0	186 片側巨脳症	0	186 ロスマンド・トムソン症候群	0
1	187 限局性皮膚異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
0	188 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
0	189 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
0	190 ドラベ症候群	0	190 聴覚腎症候群	0
0	191 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2	191 ウェルナー症候群	2
0	192 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192 コケイン症候群	0
0	193 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	2	193 ブラダー・ウィリ症候群	2
1	194 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソトス症候群	0
0	195 ウエスト症候群	0	195 スーナン症候群	0
0	196 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
0	197 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
0	198 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
0	199 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
0	200 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
0	201 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
0	202 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
0	203 難治癲癇部分発作重複型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
0	204 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	エマヌエル症候群	0
0	205 ランドウ・クレフナー症候群	0	脆弱X症候群関連疾患	0
0	206 レット症候群	0	脆弱X症候群	0
0	207 スタージ・ウェーバー症候群	0	総動脈幹遺残症	0
4	208 結節性硬化症	2	208 修正大血管転位症	2
2	209 色素性乾皮症	1	209 完全大血管転位症	1
0	210 先天性魚鱗癬	0	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	4	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	4	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	4	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	10	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	6
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球病	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	養胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	14
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音聾症	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	18

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチシルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	5
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・入退院支援加算1及び地域連携診療計画加算
・歯科診療特別対応連携加算	・認知症ケア加算2
・特定機能病院入院診療基本料(一般病棟7対1)	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院診療基本料(精神病棟15対1)	・救命救急入院料3
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料2
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料2
・医師事務作業補助体制加算1(30対1補助体制加算)	・小児入院医療管理料2及びプレイルーム加算
・急性期看護補助体制加算2(25対1看護補助者5割未満)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算2)	・
・看護補助加算1(精神病棟のみ)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・喘息治療管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料イ	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料ロ	・神経学的検査
・がん患者指導管理料ハ	・補聴器適合検査
・外来緩和ケア管理料	・ロービジョン検査判断料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・コンタクトレンズ検査料1
・糖尿病透析予防指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・乳腺炎重症化ケア・指導料	・画像診断管理加算3
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携計画策定料	・冠動脈CT撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外傷全身CT加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)	・小児鎮静下MRI撮影加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・頭部MRI撮影加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・国際標準検査管理加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・遺伝カウンセリング加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・がん患者リハビリテーション料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・精神科作業療法	・胸腔鏡下弁置換術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換(リードレスペースメーカー)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療保護入院等診療料	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術
・導入期加算1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・センチネルリンパ節加算	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・羊膜移植術	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のももの)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・網膜再建術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・人工中耳植込術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・同種死体腎移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・生体腎移植術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2	・膀胱水圧拡張術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡下筋層切開術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・輸血管管理料Ⅰ	
・自己クリオプレシビテート作製術(用手法)	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・レーザー機器加算	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算(歯科診療以外)	・
・外来放射線治療加算(歯科診療以外)	・
・高エネルギー放射線治療	・
・定位放射線治療	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・手術用顕微鏡加算	・
・歯科技工加算1及び2	・
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・口腔粘膜処置	・
・歯根端切除手術の注3	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・光トポグラフィー(抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの)	・
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・羊膜移植術	・
・内視鏡下筋層切開術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 16 例 / 剖検率 7.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	肥満に高率に合併する心房細動の抑止に向けてーレブチンを標的とした新たな治療法ー	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
2	肥満を伴う認知症予防における、脾臓IL-10合成能及び門脈血GLP-1の重要性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	650,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
3	腎不全時の降圧治療の個別化を目指した新規バイオマーカーMR-proADMの開発	伊東 弘樹	薬剤部	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
4	糖尿病における洞結節機能障害発生メカニズムの解明	篠原 徹二	循環器内科	780,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
5	組織所見、音叉検査、遺伝子多型からみた抗がん剤による末梢神経障害の発現予測の検討	白尾 國昭	腫瘍・血液内科学	520,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
6	禁煙後の体重増加における食欲抑制系ホルモンとAMPK、オステオポンチンの作用	阿部 航	総合診療・総合内科学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
7	劇症型アニサキス症の病態形成機構の解明と原因分子の同定	水上 一弘	消化器内科	1,170,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
8	Leigh脳症におけるミトコンドリア選択的オートファジー活性の検討と治療応用	宮原 弘明	小児科	780,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
9	エビプラキンの遺伝子の多様性と低分子化機構	石川 一志	皮膚科学	1,040,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
10	微量なリチウムの抗自殺作用:自殺企図患者の血中リチウム濃度を指標とした研究	塩月 一平	精神科	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
11	気質から見た双極性障害の病態進展と治療反応性の予測	寺尾 岳	精神神経医学	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
12	消化管がんの増殖・進展・転移におけるリンパ管侵襲の役割	白石 憲男	総合外科・地域連携学	1,040,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
13	神経活動依存的可塑性誘導・再教育を可能にする渦電流収束磁気刺激システムの開発研究	藤木 稔	脳神経外科学	910,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
14	DNA修復不均衡による染色体転座と肉腫発生	田仲 和宏	整形外科	1,820,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
15	スピンメタボロミクスに関する基礎的検討および臨床応用	新宮 千尋	手術部	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会

16	慢性炎症を基盤とする病態におけるヒト外尿道括約筋の脆弱化機序の解明と治療法の開発	三股 浩光	腎泌尿器外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
17	子宮内膜症において発現が増強しているmiR-210の意義に関する研究	檜原 久司	産科婦人科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
18	早産児の自発運動・姿勢評価:発達障害要因軽減を目指したケアへの応用	前田 知己	小児科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
19	透析患者の入院手術への透析専門医の介入が術後合併症、医療費に及ぼす影響の検討	中田 健	腎臓内科	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
20	アルツハイマー病の発症機構におけるNeurovascular Unitの関与	木村 成志	神経内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21	抗イディオタイプ抗体を用いたアルツハイマー型認知症のワクチン療法の開発	藪内 健一	神経内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
22	既存の自己抗体が未特定の自己免疫疾患における網羅的抗リン脂質抗体の検討	是松 聖悟	小児科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
23	造影剤併用高分解MRIによる肝深在系リンパ管解析	松本 俊郎	放射線医学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
24	抗炎症光線を用いた体腔内炎症治療法の検討-超低侵襲内視鏡治療デバイスの開発-	猪股 雅史	消化器・小児外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25	大腸がん標準治療開発のための国際多施設共同臨床試験	中嶋 健太郎	消化器・小児外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
26	肥満外科バイパス手術モデルにおける消化管ホルモンと視床下部摂食中枢の変化について	太田 正之	消化器・小児外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
27	制限増殖型レオウイルスに光線療法を併用した新しい集学的癌治療法の開発	衛藤 剛	消化器外科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
28	レクチンマイクロアレイを用いた食道癌の再発予測マーカーの開発	圓福 真一朗	消化器・小児外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
29	ラット脊椎固定モデルにおける抗RANKL抗体とBMPの相互効果の検討	宮崎 正志	整形外科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
30	骨肉腫細胞の微小環境との相互作用における液性因子の意義についての研究	糸永 一朗	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
31	前立腺癌骨転移において骨髄由来間葉系幹細胞が癌細胞の悪性形質獲得に与える影響	野村 威雄	腎臓外科・泌尿器科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
32	エストロゲン受容体βからみた慢性非細菌性前立腺炎の病態解明と新規治療法の開発	森 健一	腎臓外科・泌尿器科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

33	子宮内膜症において発現が増強しているmiR-100の意義に関する研究	奈須 家栄	産科婦人科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
34	着床不全症例における子宮内膜への低反応レベルレーザーの効果と機序に関する研究	河野 康志	産科婦人科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
35	Semaphorin- Neuropilin系の視点からの子宮内膜症の病態解明	西田 正和	産科婦人科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
36	オートファジーを介した妊娠高血圧症候群のメタボローム解析と予知因子の同定	西田 欣広	産科婦人科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
37	慢性中耳炎における制御性T細胞の免疫寛容化機序の解析	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
38	増殖硝子体網膜症の分子標的治療の開発	木許 賢一	眼科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
39	膠原病様モデルマウスを用いたT細胞活性化をもたらす新規脂質メディエータの同定	尾崎 貴士	膠原病内科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
40	角層pH上昇は、表皮内神経伸長反応を促進する	伊藤 亜希子	皮膚科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
41	Driver遺伝子変異を有する肺癌における、空間・時間的な腫瘍内不均一性の解明	橋本 崇史	呼吸器外科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
42	全身性炎症反応における体内時計制御を目的とした新たな光療法の開発	小山 淑正	手術部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
43	新規シェーグレン症候群モデル「TRAF6 欠損マウス」の病態基盤解析と治療開発	中野 聡子	眼科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
44	電磁ホーン型ESRイメージング装置による高次脳機能障害の画像評価	杉田 憲司	脳神経外科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
45	小児難治性てんかん患者の心拍変動解析による突然死の危険因子の抽出	岡成 和夫	小児科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
46	骨肉腫細胞に対するHSP90阻害剤とドキシソルピシン併用による抗腫瘍効果の増強	岩崎 達也	整形外科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
47	miRNAが制御する子宮内膜症間質細胞の脱落膜化機構の解明と診断・治療への応用	甲斐 健太郎	産科婦人科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
48	上気道粘膜免疫における樹状細胞、NKT細胞、Th17細胞の機能関連の解析	梅本 真吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
49	鼻咽腔粘膜における好中球機能とTLR4およびTREM-1の協調的作用について	森山 宗仁	耳鼻咽喉科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

50	インフルエンザ菌によるphase variationと慢性中耳炎病態への関与	藤田 佳吾	耳鼻咽喉科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
51	ANCA関連血管炎の早期診断法の確立と中耳炎発症機構の解析	立山 香織	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
52	がん化学療法に伴う悪心・嘔吐治療の個別化を目指した新規バイオマーカーの開発	佐藤 雄己	薬剤部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
53	アルツハイマー型認知症における次世代遺伝子治療・細胞内抗体治療法の開発	松原 悦朗	神経内科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
54	心臓再同期療法の治療効果に血管内皮機能が与える影響	油布 邦夫	循環器内科・臨床検査診断学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
55	肥満症における新たな認知機能関連脳内因子の解析	正木 孝幸	内分泌・糖尿病内科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
56	肺癌の進展に関わる新規がん抑制遺伝子ZNF395の機能解明と臨床応用	村上 和成	消化器内科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
57	大腸癌におけるDUSP4の機能的意義の解明と治療への応用	一万田 充洋	消化器・小児外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
58	同種造血幹細胞移植におけるHHV-6感染症と認知機能障害の関連性の解明	緒方 正男	輸血部	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
59	グレリンシグナリングを介した六君子湯の心房細動アップストリーム治療の有用性	中川 幹子	循環器内科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
60	薬剤耐性ピロリ菌の新規治療法ーLED光線を用いた新規除菌治療装置の開発ー	平塚 孝宏	高度救命救急センター	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
61	オートファジーが出生直後の飢餓対応に果たす役割の検討	関口 和人	小児科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
62	Rhoエフェクター分子は、角層バリアの恒常性維持に関与する。	波多野 豊	皮膚科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
63	加齢や炎症が腸管免疫活性に与える影響ー大腸癌発生母地との関連	上田 貴威	総合外科・地域連携学	3,120,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
64	肥満・糖尿病を背景とした肝癌患者における胆汁酸組成変化と発癌メカニズムの解明	岩下 幸雄	消化器外科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
65	肺癌の浸潤・転移に関する糖鎖の同定と新規治療薬の開発	平下 禎二郎	附属地域医療学センター	2,860,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
66	くも膜下出血急性期の病態形成を制御する炎症性サイトカインの機能解明と治療法の開発	阿南 光洋	脳神経外科学	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

67	ユースイング肉腫特異的融合遺伝子タイプによるマイクロRNA発現制御機構に関する解析	河野 正典	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
68	FEMシミュレーションによる日本人大腿骨の疾患及び年齢に伴う応力形態に関する研究	加来 信広	整形外科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
69	閉鎖神経の走行様式に対応した超音波ガイド下閉鎖神経ブロック穿刺法の開発	内野 哲哉	麻酔科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
70	膜型人工肺を用いた水素投与による新規治療法の開発	古賀 寛教	手術部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
71	Dexmedetomidineの抗酸化能の検討: スピン共鳴解析を用いて	北野 敬明	麻酔科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
72	術後認知機能障害および術後せん妄に対する周術期抗酸化戦略の確立	松本 重清	麻酔科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
73	人工心肺中の血液浄化アプローチによる心臓手術関連急性腎傷害の新規予防法の開発	日高 正剛	麻酔科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
74	上気道粘膜免疫応答と自然リンパ球の関与	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
75	新規アジュバントを用いた鼻腔投与型インフルエンザウイルスワクチンの開発	川野 利明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
76	低ナトリウム血症による心筋障害の機序解明と新規心不全治療戦略の構築	手嶋 泰之	検査部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
77	臨床的放射線耐性口腔癌細胞を用いた放射線抵抗因子の解明	山本 哲彰	歯科口腔外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
78	視覚認知能に着眼した鎮静時の標的行動の解明と教育プログラムの開発・検証	久我 修二	小児科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
79	小児がん長期生存者のQOL向上を目指した医療・教育・福祉の連携体制の確立	平野 直樹	小児科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
80	アルブミンの質的変動を基盤とした抗MRSA薬TDMへの展開	田中 遼大	薬剤部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
81	強皮症におけるSHP-2の役割および治療標的としての有用性の解明	前島 圭佑	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
82	TRAF6シグナルが制御するSLPIの腸管組織における恒常性維持機能の解析	園田 光	消化器内科	2,730,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
83	Slc7a5によるヒトB細胞の制御機構および膠原病治療標的としての有用性の究明	鳥越 雅隆	膠原病内科	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

84	炎症性皮膚疾患の病態形成に関わる抗菌ペプチドmBD14の発現制御機構の解明	広瀬 晴奈	皮膚科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
85	角層pHを利用したアトピー性皮膚炎の発症予測法および発症予防法の開発	酒井 貴史	皮膚科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
86	レクチンマイクロアレイを用いた肝細胞癌の分化に関する糖鎖プロファイリング	高山 洋臣	消化器外科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
87	脳内情報伝導速度の可視化で客観化する症候性脳血管収縮prediction	川崎 ゆかり	脳神経外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
88	子宮内膜症において発現が亢進しているmiR-100の意義に関する研究	竹林 兼利	産科婦人科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
89	糖尿病合併急性心不全において血糖変動は予後を悪化させるか	齋藤 聖多郎	高度救命救急センター	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
90	性差による口腔癌発症過程の違いとそれに基づく癌化予測についての研究	阿部 史佳	歯科口腔外科	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
91	髄膜腫に対する効率的ながんウイルス療法の確立	札幌 博貴	脳神経外科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
92	敗血症性急性腎傷害に有効な血液浄化膜の検討	大地 嘉史	麻酔科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
93	肺扁平上皮癌における喫煙量別比較に基づいた新たなドライバー遺伝子変異の同定	岡本 龍郎	呼吸器・乳腺外科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
94	糖尿病性腎症における尿中ポドサイトmRNAの早期診断マーカーとしての有用性の検討	福田 顕弘	腎臓内科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
95	標的医療用Aβオリゴマー抗体をPETプローブ化した新規画像バイオマーカーの創出	松原 悦朗	神経内科学	5,590,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
96	光造形と生体内組織形成術による生体適合性に優れた弁再建用バイオリフレットの開発	宮本 伸二	心臓血管外科学	6,110,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
97	生体内組織合成法を用いた異種移植可能な心臓弁膜用バイオシートの開発	首藤 敬史	心臓血管外科	8,060,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
98	リバスチグミンの有効性・安全性とコリンエステラーゼ活性およびグレリンとの関連性	小野 優子	薬剤部	550,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
99	慢性中耳炎の病態とTLR4との関連	松永 崇志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	550,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
100	アプレピタントの抗癌剤による食欲不振と血中食欲関連ペプチド濃度に与える効果の検討	龍田 涼佑	薬剤部	421,520	補委	独立行政法人 日本学術振興会

101	薬物輸送トランスポーター遺伝子発現の概日リズムに着目した、血液網膜関門機能解析	赤嶺 孝祐	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
102	特定臨床研究中央倫理審査委員会における倫理審査を補足するため戦略管理システムに関する研究	上村 尚人	臨床薬理学	4,999,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
103	認知症発症予測・予防介入・徘徊検知支援技術の開発と実用化を目指す研究	松原 悦郎	神経内科学	86,800,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
104	Unstructured タンパク質を標的にしたドレッジデザイン手法の確立を目指した研究	上村 尚人	臨床薬理学	21,300,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
105	ランドマークを暗黙知する内視鏡外科医の教師データ創出と人工知能による術中教示システムの開発～Smart Endoscopic Surgeryの実現に向けて～	猪股 雅史	消化器・小児外科学	24,230,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
106	喫煙妊婦の胎盤およびニコチン存在下の臍帯静脈血管内皮細胞のメタボローム解析	西田 欣広	産科婦人科学	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙 科学研究財団
107	肥満および認知症の発症における喫煙の影響	柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙 科学研究財団
108	肥満に伴うサルコペニア発症予防に対するカルボシン接種の有用性	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,100,000	補委	公益財団法人伊藤 記念財団
109	豚の一腹産子数を「一頭増やす」至急の免疫調節を担う精漿タンパクの特定	奥山 みなみ	全学研究推進機構 動物実験部門	1,000,000	補委	公益財団法人伊藤 記念財団
110	糖尿病性腎症の早期診断マーカーとしての尿中ポドサイトmRNA排泄量の検討	福田 頭弘	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	500,000	補委	公益財団法人日本 応用酵素協会
111	巣状分節状糸球体硬化症の腎移植後再発に対する予防・治療薬としてのヒト型抗suPAR抗体作成の試み	三股 浩光	腎泌尿器外科学	500,000	補委	一般社団法人日本 血液製剤機構
112	認知症関連疾患バイオマーカー研究	松原 悦朗	神経内科学	500,000	補委	一般社団法人日本 血液製剤機構
113	気管支吻合・形成部におけるICG蛍光胸腔鏡を用いた術中血流評価法の開発	岡本 龍郎	呼吸器・乳腺外科学	500,000	補委	公益財団法人内視 鏡医学研究振興財 団
114	乳腺センチネルリンパ節(MSLN)の血管支配が決定する腋窩血管系の最終形態の研究	安部 美幸	呼吸器・乳腺外科学	100,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団
115	抗がん剤による末梢神経障害の発生機序とその評価	白尾 國昭	腫瘍・血液内科学	300,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団
116	切除不能進行大腸癌の二次治療以降におけるバイオマーカーの検討	大津 智	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団
117	同種造血幹細胞移植後の生着不全の発症予測法の確立	緒方 正男	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団

118	造血幹細胞移植早期における下垂体・副腎皮膚ホルモンの動態	池邊 太一	腫瘍・血液内科学	200,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
119	分泌因子Tsukushiの新規肺腺癌マーカーとしての解析	河野 利恵	腫瘍・血液内科学	200,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
120	胸部食道癌に対する縦隔鏡下手術の安全性・有用性評価試験	柴田 智隆	腫瘍・血液内科学	200,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
121	内視鏡医学研究医海外派遣(アジア内視鏡外科学会)	鈴木 浩輔	消化器・小児外科学	100,000	補 委	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
122	肺癌の腫瘍内不均一性を規定する染色体不安定性の解明	岡本 龍郎	呼吸器・乳腺外科学	5,000,000	補 委	公益財団法人上原記念生命科学財団
123	眼内メタボロームの概日リズムを基盤とした糖尿病網膜症発症の分子メカニズムの解明	久保田 敏昭	眼科学	1,000,000	補 委	公益財団法人高齢者眼疾患研究財団

計 123

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ando M Goto A Yamasue M 他	呼吸器内科	Pulmonary-limited granulomatosis with polyangiitis coexisting with mixed connective tissue disease	Tohoku Journal of Experimental Medicine 242(2),109-114,2017 6	Case report
2	Nureki S Miyazaki E Tokunaga Y 他	呼吸器内科	Pulmonary Cryptococcosis Complicated by Sarcoidosis	Internal Medicine 56(10),1265-1266,2017 5	Case Report
3	Yamasue M Nureki S Usagawa Y 他	呼吸器内科	Elevated Serum Anti-GM-CSF Antibodies before the Onset of Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis in a Patient with Sarcoidosis and Systemic Sclerosis	Tohoku Journal of Experimental Medicine 243(1),77-83,2017 9	Case Report
4	Nureki S Miyazaki E Yamasue M 他	呼吸器内科	Intrascrotal and osseous sarcoidosis mimicking intrascrotal organ cancer and bony metastasis	Sarcoidosis, Vasculitis and Diffuse Lung Diseases 34(4),373-376,2018 2	Case Report
5	Komiya K Akaba T Kozaki Y 他	呼吸器内科	A systematic review of diagnostic methods to differentiate acute lung injury/acute respiratory distress syndrome from cardiogenic pulmonary edema	Critical Care 21(1),228,2017 8	Review
6	Goto A Ando M Usagawa Y 他	呼吸器内科	PR3-ANCA-positive Pulmonary Cryptococcosis	Internal Medicine 56(23),3265-3266,2017 12	Case report
7	Kadota J Kurashima A Suzuki K	呼吸器内科	The clinical efficacy of a clarithromycin-based regimen for Mycobacterium avium complex disease: A nationwide post-marketing study	Journal of infection and chemotherapy 23(5),293-300,2017 5	Original Article
8	Nakata T Suzuki M Maruo M 他	内分泌代謝・ 膠原病・腎臓 内科学講座	Granulomatous interstitial nephritis associated with silica	Nephrology 23(2),190,2018 2	Original Article
9	Ando H Gotoh K Fujiwara K 他	内分泌代謝・ 膠原病・腎臓 内科学講座	Glucagon-like peptide-1 reduces pancreatic β -cell mass through hypothalamic neural pathways in high-fat diet-induced obese rats	Scientific reports 7(1),5578,2017 7	Original Article
10	Gotoh K Fujiwara K Anai M 他	内分泌代謝・ 膠原病・腎臓 内科学講座	Role of spleen-derived IL-10 in prevention of systemic low-grade inflammation by obesity [Review]	Endocrine journal 64(4),375-378,2017 4	Review
11	Ozaki T Maeshima K Kiyonaga Y 他	内分泌代謝・ 膠原病・腎臓 内科学講座	Large-vessel involvement in granulomatosis with polyangiitis successfully treated with rituximab: A case report and literature review	Modern rheumatology 27(4),699-704,2017 7	Case report

小計 11

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Torigoe M Iwata S Nakayamada S 他	内分泌代謝・ 膠原病・腎臓 内科学講座	Metabolic Reprogramming Commits Differentiation of Human CD27+IgD+ B Cells to Plasmablasts or CD27-IgD- Cells	The Journal of immunology 199(2),425-434,2017 7	Original Article
13	Takemaru M Kimura N Abe Y 他	神経内科	The evaluation of brain perfusion SPECT using an easy Z-score imaging system in the mild cognitive impairment subjects with brain amyloid- β deposition	Clin Neurol Neurosurg 160,111-115,2017 9	Original Article
14	Himeno T Kuriyama M Takemaru M 他	神経内科	Vascular Risk Factors and Internal Jugular Venous Flow in Transient Global Amnesia: A Study of 165 Japanese Patients.	J Stroke Cerebrovasc Dis 26(10),2272-2278,2017 10	Original Article
15	Abe Y Kimura N Takahashi R 他	神経内科	Relationship between cytokine levels in the cerebrospinal fluid and 11C-Pittsburgh compound B retention in patients with mild cognitive impairment	Geriatr Gerontol Int 17(11),1907-1913,2017 11	Original Article
16	Sonoda A Ogawa R Mizukami K 他	消化器内科	Marked improvement in gastric involvement in Behçet's disease with adalimumab treatment	The Turkish journal of gastroenterology 28(5),405-407,2017 9	Case report
17	Mizukami K Ogawa R Okamoto K 他	消化器内科	Objective Endoscopic Analysis with Linked Color Imaging regarding Gastric Mucosal Atrophy: A Pilot Study	Gastroenterology research and practice 2017 11 (オンライン)	Original Article
18	Honda K Seike M Oribe J 他	消化器内科	Usefulness of semiquantitative PCR-Invader assay for selecting candidates for daclatasvir plus asunaprevir combination therapy among patients with hepatitis C virus genotype 1b	Hepatology research 48(4),255-263,2018 3	Original Article
19	Sonoda A Wada K Mizukami K 他	消化器内科	Deep Ulcers in the Ileum Associated with Mycophenolate Mofetil	Internal medicine 56(21),2883- 2886.,2017 11	Case report
20	Shuto M Fujioka T Matsunari O 他	消化器内科	Association between Gastric Cancer Risk and Serum Helicobacter pylori Antibody Titers	Gastroenterology research and practice 2017 6 (オンライン)	Original Article
21	Fukui A Ikebe-Ebata Y Kondo H 他	循環器内科	Hyperleptinemia Exacerbates High-Fat Diet-Mediated Atrial Fibrosis and Fibrillation	J Cardiovasc Electrophysiol 28(6),702-710,2017 6	Original Article
22	Ishii Y Yufu K Shinohara T 他	循環器内科	Congenital Ostial Atresia of the Left Anterior Descending Artery	Circulation Journal 81(10),1550-1552,2017 9	Original Article
23	Sonoda Y Teshima Y Abe I 他	循環器内科	Macrophage Infiltration Into the Endothelium of Atrial Tissue in Atrial Fibrillation	Circulation Journal 81(11),1742-1744,2017 10	Original Article
24	Fujinami M Kondo H Yufu K 他	循環器内科	Association between the baseline peripheral blood monocyte counts, the size of spleen, and the response to cardiac resynchronization therapy	Journal Cardiol 71(3),299-304,2018 3	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
25	Kondo H Abe I Fukui A 他	循環器内科	Possible role of rivaroxaban in attenuating pressure-overload-induced atrial fibrosis and fibrillation	Journal Cardiol 71(3),310-319,2017 3	Original Article
26	Ogata M Oshima K Ikebe T 他	血液内科	Clinical characteristics and outcome of human herpesvirus-6 encephalitis after allogeneic hematopoietic stem celltransplantation	Bone Marrow Transplantation 52 (11),1563- 1570,2017 11	Original Article
27	Ikebe T Takata H Sasaki H 他	血液内科	Hemophagocytic lymphohistiocytosis following influenza vaccination in a patient with aplastic anemia undergoing allogeneic bone marrow stem cell transplantation	Int H Hematol 105 (4),389-391,2017 4	Case report
28	Terao T Ishida A Kimura T 他	精神科	Assessment of safety and efficacy of lamotrigine over the course of 1-year observation in Japanese patients with bipolar disorder: post-marketing surveillance study report	Neuropsychiatr Dis Treat 13,1441-1448,2017 6	Original Article
29	Terao T Ishida A Kimura T 他	精神科	Preventive Effects of Lamotrigine in Bipolar II Versus Bipolar I Disorder	J Clin Psychiatry 78(8),e1000- e1005,2017 10(オンラ イン)	Original Article
30	Kanehisa M Terao T Shiotsuki I 他	精神科	Serum lithium levels and suicide attempts: a case-controlled comparison in lithium therapy-naive individuals	Psychopharmacology (Berl) 234(2),3335- 3342,2017 10	Original Article
31	Hirakawa H Terao T Fujii S 他	精神科	Bright Light Therapy for Negative Symptoms	Prim Care Companion CNS Disord 19(5),17/02117,2017 9 (オンライン)	Letter
32	Ishii N Terao T Shiotsuki I	精神科	Low estrogen but not high cholesterol induced suicide?	Acta Psychiatr Scand 136(6),658,2017 12	Letter
33	Hatano K Terao T Hirakawa H 他	精神科	Cyclothymic temperament and glucose metabolism in the right superior parietal lobule	Psychiatry Res Neuroimaging 270,76-79,2017 10	Original Article
34	Matsuzaki H Terao T Inoue T 他	精神科	Re-analysis of the association of temperature or sunshine with hyperthymic temperament using lithium levels of drinking water	J Affect Disord 223,126-129,2017 12	Original Article
35	Ishii N Terao T Matsuzaki H 他	精神科	Lithium in drinking water may be negatively associated with depressive temperament in the nonclinical population	Clinical Neuropsychopharmacol ogy and Therapeutics 8,7-11,2017 12(オンラ イン)	Original Article
36	Terao T	精神科	CNPT in Transition	Clinical Neuropsychopharmacol ogy and Therapeutics 8,12,2017 12(オンライ ン)	Others
37	Ishii N Terao T Shiotsuki I 他	精神科	Comparison of lithium levels between Japanese and foreign mineral waters	Clinical Neuropsychopharmacol ogy and Therapeutics 8,13-15,2017 12(オン ライン)	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
38	Hatano K Terao T Ishii N 他	精神科	A case of acute pelvic pain responding to escitalopram but not to anti-inflammatory drugs	Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics 8,38-41,2017 12(オンライン)	Case report
39	Terao T Kanehisa M Shiotsuki I 他	精神科	Mixed Features in Bipolar I Disorder and the Effect of Lithium on Suicide	Am J Psychiatry 175(1),80,2018 1	Letter
40	Ishii N Terao T	精神科	Trace lithium and mental health	J Neural Transm (Vienna) 125(2),223-227,2018 2	Original Article
41	Korematsu S Nagashima K Sato Y 他	小児科	"Spike" in acute asthma exacerbations during enterovirus D68 epidemic in Japan: A nation-wide survey	Allergology International 67(1),55-60,2018 1	Original Article
42	Korematsu S Toyokuni K Handa Y 他	小児科	Medical certification reduces the number of children requiring allergen elimination diets for school lunches	Asian Pacific Allergy 7(2),92-96,2017 4	Original Article
43	Ihara K Fukano C Ayabe T 他	小児科	FUT2 Nonsecretor Status Links Type 1 Diabetes Susceptibility in Japanese children	Diabet Med 34(4),586-589,2017 4	Original Article
44	Sato-Kawano N Takemoto M Okabe E 他	小児科	The clinical characteristics of Asian patients with classical-type Hutchinson-Gilford progeria syndrome	J Hum Genet 62(12),1031-1035,2017 12	Original Article
45	Itonaga T Goto H Toujigamori M 他	小児科	Three-quarters adrenalectomy for infantile-onset Cushing syndrome due to bilateral adrenal hyperplasia in McCune-Albright syndrome	Horm Res Paediatr 88(3-4),285-290,2017 10	Case report
46	Korematsu S Yamada H Miyahara H 他	小児科	Increased levels of anti-phosphatidylcholine and anti-phosphatidylethanolamine antibodies in pediatric patients with cerebral infarction	Brain Dev 39(6),542-546,2017 6	Case report
47	Oba U Yamada H Suenobu SI 他	小児科	Toxic epidermal necrolysis in a child 6 months post-hematopoietic stem cell transplantation	Pediatr Transplant 21(5),e12931,2017 8 (オンライン)	Case report
48	Kawano F Itonaga T Inoue M 他	小児科	Central hypoadrenocorticism associated with Rathke's cleft cyst	Neuro Endocrinol Lett 38(3),141-144,2017 7	Case report
49	Goto H Kimura M Hirano N 他	小児科	NUP98-HOXC13 fusion gene in acute myeloid leukemia: Pediatric case	Pediatr Int 59(10),1105-1106,2017 10	Case report
50	Iwashita Y Hibi T Ohyama T 他	消化器外科	An opportunity in difficulty: Japan-Korea-Taiwan expert Delphi consensus on surgical difficulty during laparoscopic cholecystectomy	JHBPS(Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences) 24(4),191-198,2017 4	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Ueda Y Shiroshita H Etoh T 他	消化器外科	Laparoscopic proximal gastrectomy for early gastric cancer	Surg Today 47(5),538-547,2017 5	Original Article
52	Ueda Y Fujishima T Hirashita T 他	消化器外科	Clinical impact of small advanced gastric cancer (≤ 40 mm) in elderly patients: A retrospective cohort study	Int J Surg 45,131-137,2017 9	Original Article
53	Ueda Y Shiraishi N Hirashita T 他	消化器外科	Surgical Training With Live Animal Models for Laparoscopic Gastrectomy	Surg Innov 24(5),533-535,2017 10	Original Article
54	Fujishima H Fumoto S Shibata T 他	消化器外科	A 17-Molecule Set as Predictor of Complete Response to Neoadjuvant Chemotherapy with Docetaxel, Cisplatin, and 5-fluorouracil in oophageal Cancer	PLoS One 12(11),e0188098,2017 11(オンライン)	Original Article
55	Iwashita Y Hibi T Ohyama T 他	消化器外科	Delphi consensus on bile duct injuries during laparoscopic cholecystectomy: An evolutionary cul-de-sac or the birth pangs of a new technical framework?	JHBPS(Journal of Hepato-Biliary- Pancreatic Sciences) 24(11),591-602,2017 11	Original Article
56	Tada K Etoh T Shitomi Y 他	消化器外科	A case of advanced gastric cancer achieved a pathological complete response by chemotherapy	Surg Case Rep 3(1),68,2017 12	Case report
57	Fujishima H Ueda Y Shiraishi N 他	消化器外科	Characteristics of Advanced Gastric Cancer With Negative or Only Perigastric Lymph Node Metastasis in Elderly Patients	Aging Clin Exp Res 30(2),161-168,2018 2	Original Article
58	Tada K Ohta M Saga K 他	消化器外科	Long-term outcomes of laparoscopic versus open splenectomy for immune thrombocytopenia	Surg Today 48(2),180-185,2018 2	Original Article
59	Akagi T Inomata M Hasegawa S 他	消化器外科	Short- and long-term outcomes following Laparoscopic palliative resection for patients with incurable, asymptomatic stage IV colorectal cancer : A multicenter study in Japan	JARC(Journal of the Anus, Rectum and Colon) 1(4),125-130,2017 10	Original Article
60	Shitomi Y Nishida H Kusaba T 他	消化器外科	Gastric lanthanosis (Lanthanum deposition) in dialysis patients treated with lanthaum carbonate	Pathol Int 67(8),389-397,2017 8	Original Article
61	Ichimanda M Hijiya N Tsukamoto Y 他	消化器外科	Downregulation of dual-specificity phosphatase 4 enhances cell proliferation and invasiveness in colorectal carcinomas	Cancer Sci 109(1),250-258,2018 1	Original Article
62	Osoegawa A Hiraishi H Hashimoto T 他	呼吸器外科	The Positive Relationship Between γ H2AX and PD-L1 Expression in Lung Squamous Cell Carcinoma	In Vivo 32(1),171-177,2018 1	Original Article
63	Takeuchi H Abe M Takumi Y 他	乳腺外科	The prognostic impact of the platelet distribution width-to-platelet count ratio in patients with breast cancer	PLoS One 12(12),e0189166,2017 12(オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
64	Shuto T Anai H Hirota J 他	心臓血管外科	Perioperative management for iatrogenic aortocoronary dissection during percutaneous coronary intervention.	Cardiovascular Intervention and Therapeutics 32(4),440-444,2017 10	Case report
65	Fudaba H Kubo T Goda M 他	脳神経外科	The Potentiality for Development of Multiple Dural Arteriovenous Fistulas after Ligation of the Internal Jugular Vein	NMC Case Rep J 4(3),71-73,2017 6	Original Article
66	Kawasaki Y Fujiki M Uchida S 他	脳神経外科	A Single Oral Dose of Geranylgeranylacetone Upregulates Vascular Endothelial Growth Factor and Protects against Kainic Acid-Induced Neuronal Cell Death: Involvement of the Phosphatidylinositol-3 Kinase/Akt Pathway	Pathobiology 84(4),184-191,2017 7	Original Article
67	Kawasaki Y Uchida S Onishi K 他	脳神経外科	Intraoperative Neurophysiologic Monitoring for Prediction of Postoperative Neurological Improvement in a Child With Chiari Type I Malformation	J Craniofac Surg 28(7),1837-1841,2017 10	Original Article
68	Kawasaki Y Uchida S Onishi K 他	脳神経外科	Pediatric nondura-based clear cell meningioma of the cauda equina: case report and review of literature	Br J Neurosurg 24,1.-4,2018 1	Original Article
69	Kawano M Tanaka K Itonaga I 他	整形外科	MicroRNA-181c prevents apoptosis by targeting of FAS receptor in Ewing's sarcoma cells	Cancer Cell Int. 18,37,2018 3	Original Article
70	Kaku N Shimada T Tabata T 他.	整形外科	Three-dimensional architecture of the ligamentum teres in the human hip joint.	Muscles Ligaments Tendons J. 7(3),442-448,2018 1	Original Article
71	Abe T Kaku N Tabata T 他	整形外科	Clinical results of hemiarthroplasty using new bipolar cups for stage 3 or lower osteonecrosis of the femoral head: a retrospective study	Musculoskelet Surg. 2017 11(オンライン)	Original Article
72	Miyazaki M Ishihara T Notani N 他	整形外科	Relationship of T1 slope with loss of lordosis and surgical outcomes after laminoplasty for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament	Clin Neurol Neurosurg. 164,19-24,2018 1	Original Article
73	Kawano M Tanaka K Itonaga I 他	整形外科	MicroRNA-20b promotes cell proliferation via targeting of TGF- β receptor II and upregulates MYC expression in Ewing's sarcoma cells	Int J Oncol 51(6),1842-1850,2017 12	Original Article
74	Miyazaki M Notani N Ishihara T 他	整形外科	Surgical outcomes after laminoplasty for cervical spondylotic myelopathy: A focus on the dynamic factors and signal intensity changes in the intramedullary spinal cord on MRI	Clin Neurol Neurosurg. 162,108-114,2017 11	Original Article
75	Kaku N Tabata T Tagomori H 他	整形外科	The mechanical effects of cup inclination and anteversion angle on the bearing surface	Eur J Orthop Surg Traumatol 28(1),65-70,2018 1	Original Article
76	Notani N Miyazaki M Kanezaki S 他	整形外科	Surgical outcomes of laminoplasty for cervical spondylotic myelopathy in very elderly patients (older than 80 years): Time from symptom onset to surgery and changes in spinal cord signal intensity on MRI	Clin Neurol Neurosurg. 160,78-82,2017 9	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
77	Ishihara T Miyazaki M Notani N 他	整形外科	Locally Applied Simvastatin Promotes Bone Formation in a Rat Model of Spinal Fusion	J Orthop Res 35(9),1942-1948,2017 9	Original Article
78	Notani N Miyazaki M Yoshiiwa T 他	整形外科	Acute celiac artery compression syndrome after extensive correction of sagittal balance on an adult spinal deformity	Eur Spine J. 26,31-35,2017 5	Original Article
79	Notani N Miyazaki M Yoshiiwa T 他	整形外科	Dynamic paraspinal muscle impingement causing acute hemiplegia after C1 posterior arch laminectomy: A case report	Medicine (Baltimore) 96(50),e9264,2017 12	Case report
80	Miyazaki M Kanezaki S Notani N 他	整形外科	Spondylectomy and lateral lumbar interbody fusion for thoracolumbar kyphosis in an adult with achondroplasia: A case report	Medicine (Baltimore). 96(49),e8983,2017 12	Case report
81	Uehara M Shimizu F	形成外科	The Distal Stump of the Intramuscular Motor Branch of the Obturator Nerve Is Useful for the Reconstruction of Long-Standing Facial Paralysis Using a Double-Powered Free Gracilis Muscle Flap Transfer	J Craniofac Surg 29(2),476-481,2018 3	Original Article
82	Ishikawa K Shono-Saito T Yamate T 他	皮膚科	A case of fulminant type 1 diabetes mellitus, with a precipitous decrease in pancreatic volume, induced by nivolumab for malignant melanoma: analysis of HLA and CTLA-4 polymorphisms	Eur J Dermatol 27(2),184-185,2017 4	Original Article
83	Fujinaga-Tada M Sakai T Nakamura Y 他	皮膚科	Observation of water evaporation and stratum corneum hydration and pH during the clinical course of a patient with acquired idiopathic generalized anhidrosis	J Dermatol 44(11),e308-e309,2017 11	Original Article
84	Zhang W Sakai T Fujiwara S 他	皮膚科	Wy14643, an agonist for PPAR α , downregulates expression of TARC and RANTES in cultured human keratinocytes	Exp Dermatol 26(5),457-459,2017 5	Original Article
85	Sakai T Yamada N Yamamoto O 他	皮膚科	Argyria due to embedded acupuncture needles and their transcaval migration into the right ventricle without serious complications	Eur J Dermatol 27(6),655-656,2017 12	Case report
86	Saito-Shono T Nakamura Y Sakai T 他	皮膚科	A case of IgA pemphigus foliaceus with high scores on drug-induced lymphocyte stimulation tests secondary to various drugs	Eur J Dermatol 27(6),664-665,2017 12	Case report
87	Shimada H Takeo N Saito-Shono T 他	皮膚科	Superficial epidermolytic ichthyosis concomitant with atopic dermatitis	Eur J Dermatol 28(1),94-96,2018 2	Case report
88	Shinohara M Sumino Y Sato F 他	腎臓外科・泌尿器科	Tumor necrosis factor- α inhibits differentiation of myogenic cells in human urethral rhabdosphincter	Int J Urol 24(6),461-467,2017 6	Original Article
89	Mizoguchi S Mori K Wang Z 他	腎臓外科・泌尿器科	Effects of Estrogen Receptor β Stimulation in a Rat Model of Non-Bacterial Prostatic Inflammation	Prostate 77(7),803-811,2017 5	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
90	Shin T Smyth TB Ukimura O 他	腎臓外科・泌 尿器科	Detection of prostate cancer using magnetic resonance imaging/ultrasonography image-fusion targeted biopsy in African-American men	BJU Int 120(2),233-238,2017 8	Original Article
91	Shin T Smyth TB Ukimura O 他	腎臓外科・泌 尿器科	Diagnostic accuracy of a five-point Likert scoring system for magnetic resonance imaging (MRI) evaluated according to results of MRI/ultrasonography image-fusion targeted biopsy of the prostate	BJU Int 121(1),77-83,2018 1	Original Article
92	Takei K Yamasaki M Abe S 他	腎臓外科・泌 尿器科	Laparoscopic single-site nephrectomy for hemodialysis patients with dialysis-related renal tumors	Minim Invasive Ther Allied Technol 27(3),153-159,2018 (オンライン)	Original Article
93	Moriyama M Kodama S Hirano T 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Endoscopic-modified medial maxillectomy and its Limitation for a solitary fibrous tumor of the lacrimal sac and nasolacrimal duct	Auris Nasus Larynx 44(3),370-374,2017 6	Original Article
94	Tateyama K Kodama S Kishibe K 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	A novel strategy with combined assays for detection of anti-neutrophil cytoplasmic antibody (ANCA) in clinically ANCA-negative granulomatosis with polyangiitis patients	Auris Nasus Larynx 44(6),735-741,2017 12	Original Article
95	Iwasaki T Hirano T Kodama S 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Monophoryl lipid A enhances nontypeable Haemophilus influenzae-specific mucosal and systemic immune responses by intranasal immunization	International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 97,5-12,2017 6	Original Article
96	Hirakawa T Nasu K Aoyagi Y 他	産科婦人科	Arcyriaflavin a, a cyclin D1-cyclin-dependent kinase4 inhibitor, induces apoptosis and inhibits proliferation of human endometriotic stromal cells: a potential therapeutic agent in endometriosis	Reprod Biol Endocrinol 15(1),53,2017 7	Original Article
97	Hirakawa T Minaguchi T Itani Y 他	産科婦人科	Current status of tertiary debulking surgery and prognosis after secondary debulking surgery for recurrent Müllerian epithelial cancer in Japan: a retrospective analysis of 164 patients (KCOG-G1402)	World J Surg Oncol 15(1),132,2017 7	Original Article
98	Itonaga Y Nishida M Matsumoto H 他	産科婦人科	A Case of Neuroendocrine Carcinoma Developing from the Broad Ligament of the Uterus	Rare Tumors 9(2),6958,2017 7	Case report
99	Kai K Kai Y Nishida M 他	産科婦人科	Modified Gilliam-Doleris Hysteropexy for Juvenile Uterovaginal Prolapse	Clin Exp Obstet Gynecol 2,109-111,2018 1	Case report
100	Hirakawa T Kawano Y Mizoguchi C 他	産科婦人科	Expression of angiogenic factors in sclerosing stromal tumours of the ovary	J Obstet Gynaecol 13,1-4.,2018 2(オン ライン)	Case report
101	Yano M Nasu K Matsumoto H 他	産科婦人科	Ruptured external iliac artery pseudoaneurysm following surgery for ovarian cancer: A case report and literature review	J Obstet Gynaecol Res 44(1),184-186,2018 1	Case report
102	Yamada Y Matsumoto S Mori H 他	放射線科	Periportal lymphatic system on post-hepatobiliary phase Gd-EOB-DTPA-enhanced MR imaging in normal subjects and patients with chronic hepatitis C	Abdom Radiol (NY) 42(10),2410-2419,2017 10	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
103	Kiyosue H Matsumaru Y Niimi Y 他	放射線科	Angiographic and Clinical Characteristics of Thoracolumbar Spinal Epidural and Dural Arteriovenous Fistulas	Stroke 48(12),3215-3222,2017 12	Original Article
104	Yamamoto N Takahashi Y Kono T 他	歯科口腔外科	Importance of absorbable surgical sutures for the prevention of stitch abscess after surgery in patients with oral squamous cell carcinoma	Medicina Oral Patologia Oral y Cirugia Bucal 22(3),e349-353,2017 5	Original Article
105	Oyama Y Bartman CM Gile J 他	手術部	Circadian MicroRNAs in Cardioprotection	Current Pharmaceutical Design 23(25),3723-3730,2017	Review
106	Suzuki Y Witt L Mier W 他	薬剤部	Ultra-sensitive and selective quantification of endothelin-1 in human plasma using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis 142,84-90,2017 8	Original Article
107	Tanaka R Sato Y Goto K 他	薬剤部	Pharmacokinetic/Pharmacodynamic Analysis for Doripenem Regimens in Intensive Care Unit Patient	Biological Pharmceutical Bulluten 40(8),1226-1231,2017 8	Original Article
108	Suzuki Y Tanaka R Oyama N 他	薬剤部	Sensitive and selective quantification of total and free itraconazole and hydroxyitraconazole in human plasma using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry	Clinical Biochemistry 50(18),1228-1236,2017 12	Original Article
109	Sato Y Hiramatsu K Suzuki Y 他	薬剤部	Optimal trough concentration of teicoplanin in febrile neutropenic patients with hematological malignancy.	Chemotherapy 63(1),29-34,2018 1	Original Article
110	Sumimoto T Nakahara R Sato Y 他	薬剤部	A quantitative method for the determination of bosutinib in human plasma using high-performance liquid chromatography and ultraviolet detection.	Journal of Clinical Laboratory Analysis 32(1),22201,2018 1	Original Article

小計 8
計 110

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病 院における	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 目的、定義、対象者、対象事象、審査する委員会に関する事項（審議事項、組織、任期、委員長、委員会の開催要件、委員以外の出席、審査手続き、審査内容、調査方法、概念の啓蒙、守秘義務）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年19回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合にはその主なポイントの解説を行っている。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

呼吸器内科臨床研修プログラム
 内分泌・糖尿病内科専門医育成プログラム
 リウマチ・膠原病内科専門医育成プログラム 他28件

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	77.14 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
門田 淳一	呼吸器内科	教授	36年	
柴田 洋孝	内分泌・糖尿病内科	教授	29年	
柴田 洋孝	膠原病内科	教授	29年	
柴田 洋孝	腎臓内科	教授	29年	
松原 悦朗	神経内科	教授	32年	
村上 和成	消化器内科	教授	34年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	29年	
白尾 國昭	血液内科	教授	34年	
白尾 國昭	腫瘍内科	教授	34年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	33年	
寺尾 岳	精神科	教授	32年	
井原 健二	小児科	教授	28年	
猪股 雅史	消化器外科	教授	29年	
杉尾 賢二	呼吸器外科	教授	35年	
杉尾 賢二	乳腺外科	教授	35年	
宮本 伸二	心臓血管外科	教授	33年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	31年	
津村 弘	整形外科	教授	36年	
清水 史明	形成外科	講師	18年	
波多野 豊	皮膚科	教授	25年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	34年	
久保田 敏昭	眼科	教授	35年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科	教授	33年	
橋原 久司	産科婦人科	教授	33年	
森 宣	放射線科	教授	40年	
北野 敬明	麻酔科	教授	33年	
坂本 照夫	救命救急科	教授	40年	
片岡 晶志	リハビリテーション科	診療教授	30年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	32年	
駄阿 勉	病理診断科・病理部	教授	30年	
上村 尚人	臨床薬理センター	教授	26年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
【看護部】 看護師向け段階別研修の期間，実施回数。参加人数は別紙 1 のとおり ・看護管理研修 【目標管理研修】外部講師による目標管理の基礎研修 平成30年3月16日（金）17:30～19:00 参加者：看護師121名、管理者24名 平成30年3月17日（土）9:00～12:00 参加者：看護師長27名（次年度昇任予定者含む） 平成30年3月17日（土）13:00～16:00 参加者：副看護師長51名 【看護師長パワーアップトレーニング】外部講師による概念化能力向上、事例検討など 平成30年1月31日（水）9:00～16:00 参加者：看護師長25名 平成30年2月14日（水）9:00～16:00 参加者：看護師長25名 【放射線部】 別紙 2 のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 新採用者オリエンテーションにより，本院において医療業務に携わる上で，各職員が必ず修得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。 ・研修の期間・実施回数 平成 2 9 年 4 月 3 日（月），4 月 4 日（火） ・研修の参加人数 7 0 名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

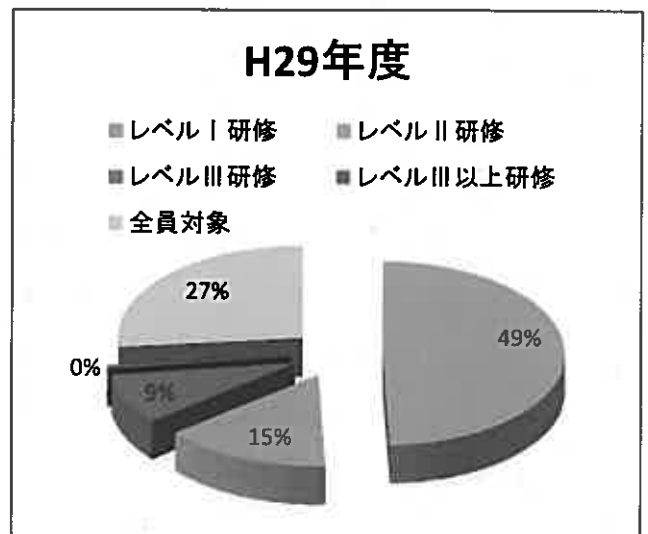
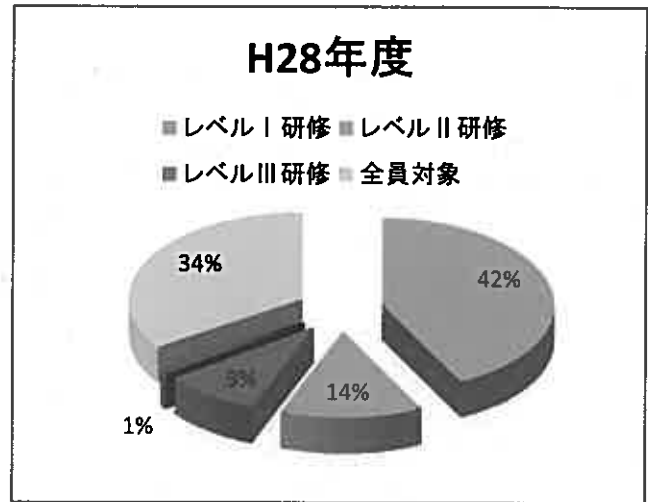
(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

平成29年度 看護部研修実績

研修名	人数	時間
新人看護職員研修		
新採用・サービスマナー・倫理	57	16
新人・フレッシュ研修	57	8
新人リフレッシュ研修	55	8
新人・1ラウンドフォローアップ	56	16
新人・2ラウンドフォローアップ	56	16
新人・1年目フォローアップ	55	16
技術演習	56	48
ME研修	63	16
薬の知識	58	2
褥瘡予防	58	1
新採用・医療安全管理	63	8
新採用・感染管理	63	8
BLS研修	56	8
看護過程I	59	32
コミュニケーション基礎編	48	16
レベルI研修	860	219
研修名	人数	
看護過程II(LII)	51	16
リーダーI(LII)	58	16
実地指導者研修	20	24
医療安全管理 レベルII	64	8
感染管理 レベルII	62	8
レベルII研修	255	72
研修名	人数	時間
看護過程III(LIII)	15	8
リーダーII(LIII)	21	9.5
事例検討・ベナー(LIII)	20	8
教育担当者研修	15	24
医療安全管理 レベルIII	29	16
感染管理 レベルIII	32	4
リフレクティブ研修	14	88
リフレクティブ研修フォローアップ	8	8
レベルIII研修	154	165.5
地域包括ケア(公開講座)研修生のみ	10	1.5
地域包括ケア(施設見学・発表・GW)	10	12
レベルIII以上研修	10	13.5
研修名	人数	時間
コミュニケーションスキル	11	7
看護と倫理	10	7
フィジカルアセスメントII	9	7.5
論理的思考	19	8
がん化学療法看護	28	1.5
緩和ケア研修	18	1.5
がん看護	0	0
急性重症看護	13	1.5
心電図の基礎知識(ベーシック)	34	7.5
心電図の基礎知識(不整脈)	23	7.5
心電図の知識(虚血)	13	7.5
皮膚排泄ケア	16	3
フィジカルアセスメントI	38	2
摂食嚥下障害看護I	45	1.5
災害看護(救急看護)	18	1.5
周術期看護	32	1.5
糖尿病看護I	31	1.5
集中ケアII(人工呼吸器装着中の看護)	43	1.5
老年看護(1日)	22	7
老年看護(半日)	0	0
地域包括ケア(公開講座)研修生以外	41	1.5
脳卒中リハビリテーション看護	0	0
自主研修	464	77.5

H28年度レベル別			H29年度レベル別		
受講者数	時間		受講者数	時間	
レベルI研修	689	195.25	レベルI研修	860	219
レベルII研修	218	64	レベルII研修	255	72
レベルIII研修	146	165.5	レベルIII研修	154	165.5
レベルIII以上研修	13	13.5	レベルIII以上研修	10	13.5
全員対象	559	90.15	全員対象	464	77.5
受講者総数	1625	528.4	受講者総数	1743	547.5

注)全員対象:自主研修



放射線部別紙：

様式第 4 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

①医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況

(1)放射線業務従事者教育訓練講習会

⇒放射線管理区域に入って放射線診療を行う者(新規対象者)ならびに更新者に対して、法令に基づき教育訓練研修を受ける必要がある。(看護師、医療技術職員)

- ・平成 29 年 4 月 20 日(新規) 参加者：8 名
- ・平成 29 年 6 月 21 日(新規) 参加者：14 名
- ・平成 29 年 10 月 13 日(新規) 参加者：12 名
- ・平成 29 年 5 月 12 日(更新) 参加者：67 名
- ・平成 29 年 7 月 13 日(更新) 参加者：14 名

(2)放射線技師室研修

- ・平成 29 年 4 月 13 日 英語論文研修 参加者：24 名
- ・平成 29 年 5 月 11 日 英語論文研修 参加者：26 名
- ・平成 29 年 7 月 13 日 英語論文研修 参加者：26 名
- ・平成 29 年 8 月 10 日 英語論文研修 参加者：25 名
- ・平成 29 年 8 月 24 日 機器取扱い研修 参加者：24 名
- ・平成 29 年 9 月 14 日 英語論文研修 参加者：27 名
- ・平成 29 年度 10 月 5 日 英語論文研修 参加者：28 名
- ・平成 29 年 10 月 26 日 機器取扱い研修 参加者：26 名
- ・平成 29 年 11 月 15 日 学術論文研修 参加者：27 名
- ・平成 29 年 11 月 30 日 機器取扱い研修 参加者：24 名
- ・平成 29 年 12 月 21 日 英語論文研修 参加者：26 名
- ・平成 30 年 1 月 18 日 医療安全研修 参加者：26 名
- ・平成 30 年 2 月 1 日 透視検査研修 参加者：27 名
- ・平成 30 年 3 月 15 日 医療安全研修 参加者：28 名

(3)放射線技師新人研修

⇒平成 29 年度新採用となった 2 名の新人技師に対し Off-JT 方式の講義研修を行った。

- ・平成 29 年 4 月 3 日：放射線部オリエンテーション
- ・平成 29 年 4 月 6 日：病院の理念と基本方針
- ・平成 29 年 4 月 21 日：大分大学附属病院安全管理マニュアル
- ・平成 29 年 5 月 12 日：MRI 検査安全教育用 DVD
- ・平成 29 年 5 月 19 日：放射線部境域システム

- ・平成 29 年 5 月 26 日：放射線部安全管理マニュアル
- ・平成 29 年 6 月 9 日：社会人のマナー
- ・平成 29 年 6 月 23 日：接遇のあり方
- ・平成 29 年 6 月 28 日：医療倫理の基礎知識
- ・平成 29 年 7 月 5 日：放射線における医療安全の確保
- ・平成 29 年 7 月 14 日：ヒューマンエラー
- ・平成 29 年 8 月 4 日：被ばく説明ガイドブック

②業務の管理のに関する研修の実施状況

(1)特定機能病院における定期研修

⇒安全使用に際して技術の習熟が必要と考える医療機器に関しての研修を、年 2 回程度定期的に実施することが義務付けられている。放射線部ではリニアック（直線加速器）が該当する。

1)放射線治療医学物理学会教育講演

- ・平成 29 年 4 月 14 日～4 月 16 日 ・参加者：1 名

2)放射線治療部会セミナー

- ・平成 29 年 4 月 16 日 参加者：1 名

3)放射線治療専門放射線技師認定セミナー

- ・平成 29 年 7 月 8 日 参加者：4 名

4)放射線治療専門放射線技師統一講習会

- ・平成 29 年 8 月 5 日 参加者：2 名

5)放射線治療、QCQA キットに関する講習会

- ・平成 29 年 8 月 22 日 参加者：9 名

6)医学物理士実務講習会

- ・平成 29 年 10 月 14 日 参加者：1 名

7)放射線治療研究会

- ・平成 29 年 11 月 19 日 参加者：2 名

8)放射線治療品質管理講習会

- ・平成 30 年 2 月 11 日 参加者：3 名

9)放射線部内放射線治療部門研修

- ・平成 30 年 1 月 26 日 参加者：9 名

10)放射線治療システム研究会

- ・平成 30 年 1 月 27 日 参加者：3 名

11)南九州放射線治療技術合同研究会

- ・平成 30 年 2 月 3 日 参加者：1 名

(2)新しい医療機器の導入時の研修

⇒新しい医療用装置や機器を導入する際は、当該医療機器を使用する者に対する研修を行う必要がある。

1)心臓カテーテル装置 機種：SIEMENS 社製 Artis Zee BC

- ・安全取扱い研修(操作とアプリケーション)
- ・平成 29 年 8 月 25 日～8 月 31 日
- ・参加者：8 名

2)ガンマカメラ：SIEMENS 社製 Symbia-Evo Excel

- ・安全取扱い研修(操作と散乱線測定)
- ・平成 29 年 8 月 18 日
- ・参加者：5 名

3)放射線治療アフターローディング治療計画

- ・装置概略説明、安全取扱い研修
- ・参加者：9 名

(3)コ・メディカル新採用者オリエンテーション

⇒新採用となったコ・メディカル職員に対し「放射線と放射線防護の理解」について講義研修を実施した。

- ・平成 29 年 4 月 3 日
- ・約 100 名

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 門田淳一	
管理担当者氏名	診療記録管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者, 医療情報部長, 放射線部長, 看護部長, 各診療科長, 各診療施設長, 各課長	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	医療情報部
		手術記録	医療情報部
		看護記録	医療情報部
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医療情報部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
		従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究・社会連携課 経営管理課 総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課 (医療安全管理部)
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課 (感染制御部)
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課 (感染制御部)
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課 (医療安全管理部)
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 大西 文昭		
閲覧担当者氏名	総務課長 安東 ゆか		
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室		
閲覧の手続の概要			
・ 閲覧を希望する者は、総務課に申し込みを行う。			
・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する基本的考え方 2. 医療安全管理に係る体制確保のための組織等 3. 医療安全管理に係る職員の教育・研修 4. 医療事故発生時の対応 5. 医療事故等の報告及び改善策の立案 6. 院内死亡全例の報告及び検証 7. 当該指針の閲覧 8. 患者と医療従事者との間の診療情報の共有に関する基本方針 9. 患者相談に関する基本方針 10. その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供等） 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。 2. 医療事故の判定に関すること。 3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。 4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。 5. 医事紛争に関すること。 6. その他医療安全管理上の重要事項に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬事故を起こさないために ～麻薬注射剤の払出手順の変更を踏まえて～ 2. 第 1 回 ME 機器講習会 3. 医薬品の適正使用について <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品情報・使用について ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書について ・ 医薬品副作用報告について 4. インフォームド・コンセントと診療記録 5. 第 2 回 ME 機器講習会 6. 平成 29 年度インシデント報告・総括 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。 2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に対する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立 2. 感染予防の実施，監視及び指導 3. 感染源の調査 4. 感染予防対策に関する情報の収集 5. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 守ってますか？針刺し切創防止対策と自分の体 2. 当院の褥瘡発生状況と褥瘡症例から学ぶこと 3. みんなで予防するインフルエンザ 4. 抗微生物薬の適正使用の重要性－不必要使用と不適切使用をなくそう－ 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内の耐性菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な耐性菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 2. 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており，注意を要する抗菌薬については届出制とし，感染制御部の介入を実施している。 3. 感染制御部による院内ラウンドを定期的に行い，標準予防策や感染対策の実施状況の確認，指導を行っている。また，各種感染症サーベイランスも行っており，定期的に報告を行っている。 4. マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については，病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに，感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コ・メディカル新採用者オリエンテーション（対象：コ・メディカル新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○薬剤セミナー（医療安全管理セミナー、感染制御セミナー）（対象：全職員） ○医薬品の取り扱いについて（ビデオセミナー）（対象：中途採用者） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （ 有・無 ）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 平成 29 年 8 月に全病棟・部門を対象に実施し、確認内容を保管記録している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 陰茎癌に対するイオフォスファミド、パクリタキセル、シスプラチンの点滴投与 2. 眼内悪性リンパ腫に対するメソトレキサートの硝子体注入 3. 尿素サイクル異常症に対する安息香酸ナトリウムの経口投与 <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。D I ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、その他必要に応じて通知文書として配布</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年33回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. ME機器講習会：全従業者を対象とした各種医療機器の基礎知識や安全性情報・インシデントからの注意喚起等（医療材料も含む） 2. ME機器操作研修：新規採用職員のオリエンテーションに組み込まれ、人工呼吸器等の生命維持管理装置やベッドサイドモニタ、輸液ポンプ等の操作実習 3. 使用部署ごとの研修会：各部署で使用する各種医療機器についてのME機器研修 4. 導入時研修、借用時研修：新規導入やデモや代替機借用時等での研修 5. 放射線業務従事者教育訓練講習会や放射線治療安全取扱研修、放射線治療認定講習会（リサーチオフィスにて管理） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機器安全管理専門委員会にて、特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器や中央貸出機器等について、年度末に定期点検の実施状況および来年度の計画の報告および承認を行う。 2. 臨床工学技士や診療放射線技師が定期点検計画書に沿って実施しており、それぞれが進捗状況の確認や責任者の押印にて確認している。 3. 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器の診療用高エネルギー発生装置および診療用放射線照射装置については業務委託を行っている。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 灰色レンズサングラス、躁状態が改善するかの検討 2. デュアルモビリティセメントカップ、人工股関節再置換術後の頻回脱臼患者への術後脱臼予防と可動域確保するために使用 3. シノヴァシュア、病原菌に対して放出されるα-ディフェンシンを検出する 4. Cool-tip-RFシステム、転移性および原発性肺癌に対してラジオ波灼療法にて局所制御することを目的とする。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 物品購入契約締結後の情報提供について：納入業者は物品購入契約締結後1週間以内に物品契約書、入札内訳書、見積書、カタログおよび添付文書を用途第2係に提出してもらう。その後、新しい医療機器であるか医療機器安全管理システムの情報を用い、医療機器安全副責任者が判断を行い、導入時研修の必要の有無とともに医療機器安全管理責任者等にメールにて報告する。納入業者は納品までに医療機器マスター登録書および添付文書を用途第2係に提出することで、医療機器安全管理システムに登録し、管理バーコードの発行を行った後、貼付してから納入となる。新しい医療機器である場合には、導入時研修の実施が必要となるため研修会実施記録、受講対象者名簿、研修会出席者名簿、資料を使用開始までに実施、ME機器センターに提出させる。 2. 不具合情報・安全性情報等の収集に関する協力依頼について：経営管理課長名にて、供給業者に通知を行い、添付文書の改訂、自主回収・改修等の情報について提出・報告の協力依頼を行っている。通知は納品時・6月・12月に行い、社内での周知も依頼している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 1 3 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 医療安全管理責任者 医師 1 名 (医療安全担当副病院長, 医療安全管理部長) ・ 大分大学医学部附属病院医療安全管理体制に関する細則第 3 条において, 「医療安全管理責任者を置き, 副病院長 (安全管理担当) をもって充て, 医療安全管理責任者は, 医療安全管理部, メディカル・リスクマネジメント委員会, 医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。」旨規定している。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (6 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> 【院内の医薬品使用状況の確認】 1ヶ月に1回使用状況 (使用量, 5ヶ月間未使用医薬品等) を確認している。また医薬品安全性情報の発出, 医薬品自主回収の場合には, 該当医薬品の使用状況を確認している。 【各種情報の整理】 医療安全担当主任が収集した使用状況を整理し, 必要な情報についてDI ニュース (月 1 回発行), 薬剤部便り (月 1 回発行), 通知文書等で周知している。周知状況は各部門・病棟毎に年 1 回確認票を基に確認している。 【医薬品安全管理責任者への報告】 医療安全担当主任は, 整理した情報を必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 【未承認等医薬品の処方状況の収集】 薬剤部にて調剤, 薬剤管理指導, 製剤業務時に未承認薬の使用を知り得た場合には, 薬剤部医療安全担当主任へ報告し, 未承認薬の処方状況を収集している。 【未承認等医薬品のリスク検討の有無, 処方の妥当性等の確認】 医療安全担当主任は収集した情報を基に, 処方の妥当性およびリスク等を確認している。 【未承認等医薬品を処方した医師等に対し処方変更等の提案, 医薬品安全管理責任者への報告】 リスクおよび処方の妥当性を検討後, 医療安全担当主任は適宜処方変更を医師へ提案している。さらに使用を継続する場合にはクオリティマネジメント室未承認新規医薬品管理部門にて未承認薬の臨床使用について検討を行っている。また医療安全担当主任は検討結果についてリストを作成し, 医薬品安全管理責任者へ必要に応じて報告している。 ・ 担当者の指名の有無 (有・無) ・ 担当者の所属・職種: (所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師 (医療安全担当主任)) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者, 標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認, 及び指導の主な内容: 平成 29 年 7 月に診療情報管理支援室で「検査等説明書」の記載項目の監査を実施。監査結果は, 診療記録委員会, 病院運営委員会, 各診療科に報告。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 平成 30 年 2 月に診療記録委員会に診療記録監査チームを設置し、診療記録監査を実施。 平成 30 年 3 月に監査結果報告書を作成し、診療記録委員会、病院運営委員会で報告。また、各診療科へ監査結果報告書と個別結果をフィードバック。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（17）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関する事 2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関する事 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行う事 4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行う事 5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行う事。 6. 医療内容についての相談等に関する事 7. 医療安全に係る連絡調整に関する事 8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関する事 9. 医療安全の推進に関する事 10. 医療安全に係る診療の状況の把握及び職員の意識向上の状況の確認に関する事。 11. その他医療安全に関し必要な事項 <p>【診療内容についてのモニタリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率 ・手術の予定出血量と実測値の比較 ・手術の予定手術時間と実際の手術時間の比較 <p>【従事者の医療安全の認識についてのモニタリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に開催するセミナーでの小テストの実施 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1 件）、及び許可件数（1 件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無） ・活動の主な内容： 【大分大学医学部附属病院における高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する細則（抜粋）】 （1）高難度新規医療技術を実施する診療科の長（以下「診療科長」という。）から当該高難度新規医療技術の提供の申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、その実施を認める条件等について意見を求めること。</p>	

<p>(2) 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、高難度新規医療技術の提供の申請を行った診療科長に対し、その結果を別に定める適否結果通知書により通知すること。</p> <p>(3) 当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。</p> <p>(4) 高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、従業員の遵守状況の確認を行うこと。</p> <p>(5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。</p> <p>(6) 大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会における審査資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること。</p> <p>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p>
--

<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p> <p>・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (65 件)、及び許可件数 (63 件)</p> <p>・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 未承認新規医薬品等の臨床使用に関する申請書の受付2. 未承認新規医薬品等の臨床使用申請について、臨床使用審査委員会への諮問3. 未承認新規医薬品等の臨床使用申請の結果通知4. 承認された未承認新規医薬品等について、定期報告書の提出依頼を行い、当該報告書に基づき遵守状況の確認 <p>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p>
--

<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <p>・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 213 件</p> <p>・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要ない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 18 件</p> <p>・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 院内死亡症例の報告について検証・審議し、改善策の立案等を行うこと。</p>
--

<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <p>・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：神戸大学医学部附属病院) ・無)</p> <p>・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：筑波大学附属病院) ・無)</p> <p>・ 技術的助言の実施状況 画像レポート参照機能の改善について委員会等で検討を行い、通知機能の強化、未読洗い出し機能等導入に向け検討を進めている。</p>

<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>

・体制の確保状況

- ① 患者相談窓口の活動の趣旨：「医療安全相談室のご紹介」にて院内掲示済み
患者相談窓口の設置状況：窓口名称 医療安全相談室（医事相談窓口），担当者及び相談に応じる職員：医療安全管理部副部長（医事課医療安全係長がサポートします），責任者：副病院長（安全管理担当），医療安全管理部長，相談に応じる時間帯：月～金 8：30～17：15
- ② 医療安全管理マニュアル 総論 第6（患者相談）に下記のように定めている
 - 1）医療相談の受付窓口は、医事相談窓口とする。
 - 2）医療相談があった場合は、原則として医療安全管理部副部長が対応する。
 - 3）相談者との面談は、他者のいない個室で、職員2人以上で対応する。
 - 4）医療相談に携わる職員は、その相談情報の機密保護について厳に注意し、患者等が不利益を受けることがないように配慮する。
 - 5）医療相談を行った場合は、患者等からの相談・苦情報告書を作成し、病院長まで報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

平成29年度医療安全管理セミナー 5回実施
（1回毎に同内容でビデオセミナー4回実施 計25回）
（講師：臨床工学技士，薬剤師，診療情報管理士）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者，医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の全ての者が，公益財団法人日本医療機能評価機構主催の「平成29年度 特定機能病院管理者研修」を受講済

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

【国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考等に関する規程（抜粋）】

第3条 病院長候補者となることができる者は、医師免許を有し、かつ、国立大学法人大分大学の教授（教授予定者を含む。）であって、次の各号に掲げる資質及び能力を持つものとする。

- (1) 人格が高潔で、学識に優れ、人望があり、かつ、医学部附属病院（以下「本院」という。）の現状を理解した上で将来の在り方に明確な理念を持ち、リーダーシップを発揮できる者
- (2) 医療人教育機関である本院の責任を自覚し、優れた教育者として卒前教育、卒後研修及びその後の医療人養成に貢献できる者
- (3) 高度な医療を実践する本院の責任を自覚し、最先端の医療の提供を推進できる者
- (4) 患者の安全を第一として、医療安全の確保を担保する知識、経験及び能力を有する者
- (5) 科学としての医学の重要性を理解し、医学研究機関である本院の医学研究の発展に貢献できる者
- (6) 大分県の中核病院である本院のリーダーとして地域医療の現状を深く理解し、その維持及び発展に貢献できる者
- (7) 病院の運営に関する経験を有し、病院経営を担う能力を有する者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

医学部附属病院のホームページにおいて公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) (経歴及び選定理由については、次期病院長の選任作業開始前までに公表を行う) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・ 公表の方法 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
津村 弘	大分大学	○		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
守山 正胤	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
三股 浩光	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
宮崎 英士	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
藤木 稔	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
柴田 洋孝	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
花田 俊勝	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
平松 和史	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
原田 千鶴	大分大学医学部			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
富永 志津代	大分大学医学部附属 病院			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
阿南 仁	元大分大学理事			有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
近藤 稔	大分県医師会, 医療 法人近藤整形外科			有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
田城 英哉	大分県病院局			有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
森 照明	社会医療法人敬和会			有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の2 3 第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針，中期計画，予算及び決算 等</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 ○医学部附属病院運営に関する連絡会 ○医局長会 ○医学部附属病院の院内専用ホームページより常時間閲覧可</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法 法人本部のホームページにおいて公表している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
門田 淳一	○	医師	病院長，呼吸器内科長，認知症先端医療推進センター長，災害対策室長
柴田 洋孝		医師	内分泌・糖尿病内科長，膠原病内科長，腎臓内科長
松原 悦朗		医師	神経内科長，リハビリテーション科長
村上 和成		医師	病院長補佐，消化器内科長，内視鏡診療部長，肝疾患相談センター長
高橋 尚彦		医師	病院長補佐，循環器内科長，検査部長。CCU部長
白尾 國昭		医師	血液内科長，腫瘍内科長，輸血部長，総合患者支援センター長，腫瘍センター長
宮崎 英士		医師	副病院長，総合内科・総合診療科長，卒後臨床研修センター長
寺尾 岳		医師	精神科長
井原 健二		医師	小児科長，遺伝子診療室長
猪股 雅史		医師	病院長補佐，消化器外科長，小児外科長
杉尾 賢二		医師	副病院長，呼吸器外科長，乳腺外科長
宮本 伸二		医師	心臓血管外科長，ME機器センター長
藤木 稔		医師	脳神経外科長，リハビリテーション部長，女性医療人キャリア支援センター長

(様式 6-3)

加来 信広		医師	整形外科長
清水 史明		医師	形成外科長
波多野 豊		医師	皮膚科長
三股 浩光		医師	副病院長, 腎臓外科・泌尿器科長, クオリティマネジメント室長, 血液浄化センター長
久保田 敏昭		医師	眼科長, 材料部長, 移植・再生医療支援室長
鈴木 正志		医師	副病院長, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
橋原 久司		医師	産科婦人科長, 周産母子センター長
松本 俊郎		医師	放射線科長, 放射線部長
北野 敬明		医師	麻酔科長, 手術部長, 集中治療部長
坂本 照夫		医師	救命救急科長, 高度救命救急センター長
河野 憲司		歯科医師	歯科口腔外科長
駄阿 勉		医師	病理診断科・病理部長
下村 剛		医師	医療情報部長
平松 和史		医師	副病院長, 感染制御部長, 医療安全管理部長
上村 尚人		医師	臨床薬理センター長, 総合臨床研究センター長
伊東 弘樹		薬剤師	副病院長, 薬剤部長
富永 志津代		看護師	副病院長, 看護部長
宮子 博		技術職員	医療技術部長
大西 文昭		事務職員	副病院長, 医学・病院事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。
- ・ 規程の主な内容
【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】
(病院長)
第 3 条 病院に病院長を置く。
2 病院長は、病院の管理運営を総括し、職員を監督する。

病院長の職務として、以下の事項について、規程の一部改正を行う予定
 - ・ 病院の予算編成、予算の適切執行
 - ・ 診療の実施状況の報告を求め、必要に応じ是正又は停止の命令
 - ・ 副病院長の解任について学長への上申
 - ・ 病院長補佐、科長、部長、センター長及び室長の解任
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】
(副病院長)
第 4 条 病院に副病院長 7 人を置き、総務・経営・企画担当、安全管理担当、医療人育成担当、先端医療・研究担当、薬事担当、看護担当及び事務担当とする。ただし、病院長が特に必要と認める場合は、更に 1 人の副病院長を置くことができる。
2 副病院長は、病院長の命を受け、次の各号に掲げる事項について病院長の職務を補佐する。
 - (1) 副病院長 (総務・経営・企画担当)
主として本院における経営・企画等、運営戦略的事項全般に関すること。
 - (2) 副病院長 (安全管理担当)
主として本院における医療安全管理及び危機管理に関すること。
 - (3) 副病院長 (医療人育成担当)
主として本院及び関連病院における卒後臨床研修・地域医療研修の実施・計画等、医療人の育成に関する事項全般に関すること。
 - (4) 副病院長 (先端医療・研究担当)
主として本院における先端医療及び研究全般に関すること。
 - (5) 副病院長 (薬事担当)
主として本院における薬事業務全般に関すること。
 - (6) 副病院長 (看護担当)
主として本院における看護業務全般に関すること。
 - (7) 副病院長 (事務担当)
主として本院における事務業務全般に関すること。
 - (8) 副病院長 (特命事項担当)
必要に応じ置くものとし、主として病院長が指示した特命事項に関すること。
- 3 病院長が出張等により不在又は欠員となった場合は、あらかじめ病院長が指名する副病院長が病院長の事務を代理して行う。

(病院長補佐)
第 4 条の 2 病院に 3 人以内の病院長補佐を置くことができる。
2 病院長補佐は、病院長の命を受け、特別に指示された事項を処理する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修、病院経営次世代リーダー養成塾、病院経営戦略セミナー、医薬品安全管理責任者講習会

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>【国立大学法人大分大学医療安全監査委員会規程（抜粋）】 （業務）</p> <p>第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、大分大学医学部附属病院メディカル・リスクマネジメント委員会、医療安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務が適切に行われているかどうかについて、病院長に報告を求めること。</p> <p>(2) 前号に規定する業務に関し、実地の確認を行うこと。</p> <p>(3) 学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう求めること。</p> <p>(4) 医療安全管理に係る監査業務の実施結果について公表すること。</p> <p>(5) その他医療安全管理の監査及び評価に関し必要な事項</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・公表の方法：</p> <p>法人本部及び医学部附属病院のホームページにおいて公表している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
岡村 邦彦	岡村法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
監事監査等において、病院長ヒアリングをはじめ、関連事項についての監査を実施

- ・ 専門部署の設置の有無 (・無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会で病院の管理運営に関する重要事項を、経営協議会で病院の収支報告について確認を行う。 ・ 会議体の実施状況 役員会 (年 6 回) ※平成 30 年 10 月 1 日時点の開催回数 経営協議会 (年 2 回) ※平成 30 年 10 月 1 日時点の開催回数 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 役員会 (有・<input checked="" type="checkbox"/>) (年 0 回) ※平成 31 年 3 月 31 日までに役員会へ参画し、病院の管理運営状況について報告・点検を行う予定。 経営協議会 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) (年 2 回) ※平成 30 年 10 月 1 日時点の出席回数 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 役員会 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) 経営協議会 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法 役員会：法人本部のホームページにおいて公表している。 経営協議会：法人本部のホームページにおいて公表している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：役員会、経営協議会			
会議体の委員名簿（経営協議会）			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
北野 正剛	大分大学	○	有・無
津村 弘	大分大学		有・無
伊豆島 明	大分大学		有・無
越智 義道	大分大学		有・無
西園 晃	大分大学		有・無
門田 淳一	大分大学医学部		有・無
衣笠 一茂	大分大学福祉健康科学部		有・無
石井 久子	石井法律事務所 弁護士 大分県弁護士会 会長		有・無
衛藤 卓也	福岡大学名誉学長		有・無
尾崎 春樹	学校法人目白学園 理事長 元国立教育政策研究所 所長		有・無
桑野 和泉	由布院玉の湯 代表取締役社長		有・無
杉本 直幹	日本メドトロニック株式会社 顧問		有・無
田代 英哉	大分県病院局長		有・無
広瀬 勝貞	大分県知事		有・無
幸重 綱二	大分交通株式会社 代表取締役会長 大分県経営者協会 顧問		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 病院HP内の該当URLを貼付し、毎年4月にメーリングリスト(学内周知文書)を用いて、周知を行っている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 平成31年7月に受審予定。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページによる情報発信、病院広報誌の発行（年4回） 県内関連病院長連絡会議の開催（年1回）	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 チーム医療（外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等）を実践しており、複数診療科の医師及び多職種のスタッフが連携して対応している	